Kokushikan University
4-28-1, Setagaya, Setagaya-ku
Tokyo 154-8515 JAPAN
Department of Geography & Environmental Studies
Phone: (03)5481-3231

NEWSLETTER No. 50 10 January 2012

・2011 年地理学教室の行事記録 ・・・・1
・NEWSLETTER No.50 の発刊に当たって ・・・・2
・第 11 回地理ワークショップの開催 ・・・・4
・日本国際地図学会開催報告 ・・・・6
・地域調査士・専門地域調査士について ・・・・7
・2011 年度地理実習の記録 ・・・・8
・卒業論文公開口頭試験について ・・・12
・2011 年度卒業論文公開口頭試験日程 ・・・13
・国士舘大学地理学会費の納入について ・・・16

【2011 年地理学教室の行事記録】

2 月 5・7・8 日　2010 年度卒業論文公開口頭試験
3 月 19 日　学位記授与式
5 月 20 日 ～22 日　経済地理学会第 58 回大会（梅ヶ丘校舎）
5 月 30 日 ～31 日　地理学野外実習Ａ（1 年生実習）
（新百合ヶ丘～鶴川地区，寺家ふるさと村：野口，長谷川，内田，岡島，磯谷，加藤，宮地）
6 月 11 日　国士舘大学地理学会（世田谷校舎 10 号館 10329 教室）
＜講演会＞鈴木毅彦先生（首都大学東京教授・本学非常勤講師）
「東京と関東の地形の成立：地震・火山・古環境とのかかわり」
＜総会＞
＜懇親会＞34 号館 10 階スカイラウンジ
6 月 19 日　野外生物観察会（生田緑地：磯谷）
6 月 24 日　9 月卒業論文公開口頭試験
7 月 29 日 ～ 30 日　第 11 回地理ワークショップ（中央図書館 4FAV ホール）
＜テーマ＞「アフリカ地誌の授業をどう創るか」
（嶋田義仁先生，長谷川，磯谷，野口ほか）　参加者 25 名
8 月　8 日 ～ 9 日　日本国際地図学会大会（梅ヶ丘校舎）
8 月 10 日 ～ 12 日　学外実習（群馬県川場村：宮地）
8 月 20 日 ～ 31 日　学外実習（沖縄県伊平屋島・伊是名島：長谷川）
10 月　5 日 ～ 6 日　地理学野外実習Ｂ（2 年生実習）
10 月 25 日 ～ 28 日　地理学野外実習Ｃ（3 年生実習）
12 月 17 日　国士舘大学地理学会（梅ヶ丘校舎 34 号館 B201 教室）
＜講演会＞ 小堀　昇先生（財団法人　日本地図センター研究員・本学非常勤講師）
「地図学の応用」
＜研究発表会＞青木 俊・志村 衛・坪内有沙，小川陽介，高橋孝介，塚木達彦，
斎藤 肇・大塚洋二郎・江川祐樹，鈴木一明・古川雄太，渡辺 基
＜懇親会＞１号館地下１階学生食堂

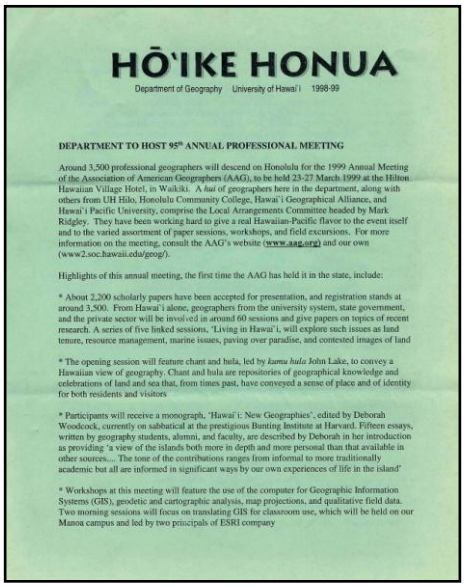
NEWSLETTER No.50 の発刊に当たって

野口　泰生

数年前，加藤先生と私は地理学専攻の学生 10 人あまりを連れて台湾に海外巡検に出かけた．お世話になった中国文化大学は国士舘大学の姉妹提携校で，地理学科長 Dr.Hsueh（スエ教授）が連日大学の大型バスで私たちを案内してくれた．彼の旺盛な奉仕精神には頭が下がる思いだったが，その彼が，ある時，バスのマイクに向かって遠慮がちにこう言った．「なんだ，目を開けているのは Miss Suzuki（院生の鈴木敬子さん） だけで，あとはみんな寝ているではないか」と．おそらく，我慢できずに口に出たのであろう．

巡検も日が経つに連れ疲れが貯まり，仕方のない部分もあったが，引率者としては赤面の至りであった．しかし，もっと気になることがあった．それは，「みんな地理の学生じゃないのか」「自分の生まれ育った環境と違う土地に来て，車窓から飛び込む風景に何の興味も沸かないのか」，「毎日の通学電車と同じ気分なのか」という点であった．このことと今回 50 号という節目を迎えた私たちの Newsletter とどういう関係があるのかと問われそうだが，その説明は最後に改めてすることにしよう．

ところで，私には知られると間違いなくあきれられる癖がある．およそ 40 年前，私はハワイ大学大学院に 6 年間在学していたが，その間，地理学科の私のメールボックスに入れられたあらゆる印刷物やメモをすべて捨てずに取ってきた．いつか使うつもりで貯めたわけではなく，学校の返却物や年賀状や教授会資料と同じく，捨てる習慣がなかっただけである．今バインダーの厚さを測ってみると 68cm にもなる．このように私は，物持ちが「よい」という癖があるのである．このバインダーから，当時のハワイ大学地理学科の年間活動の一端が分かる．このなかに地理学科が年に 2 度発行していた「Hoike Honua」（ハワイ語で「世界を見せる」，すなわち「地理」）という Newsletter がある．この「Hoike Honua」が，今回 50 号を迎える国士舘大学地理学教室 Newsletter のお手本となった（資料 1）．今この冊子を改めて読み返してみると，主な記事は世界各地で活躍する教員や大学院生や卒業生の動向が中心で，学部生相手の記事はほとんど無い．しかし，それは仕方のないことであり，アメリカの大学では日本と制度が違うため（古今書院「地理」，55(9)参照），Newsletter の情報源や配布先も常に大学院生が中心であった．「発行していた」と過去形で書いたのは，国士舘大学地理学教室の Newsletter50 号発刊を機会にハワイ大学の友達にメールで確かめてみたところ，とっくの昔に廃刊になってしまったということであった．当時から記事集めに苦労している様子だったので「さもありなん」というところである．一方，私たちの Newsletter は主に学部生を対象としたものであり，1988 年の発刊当初から地理学教室と学生とのコミュニケーション，地理学教室と学生父母との交流が目的に発刊されてきた．日常的で，かつ大事な情報を掲示板代わりに提供し，読みごたえある Newsletter を目指してきた．



HŌ'IKE HONUA

Department of Geography University of Hawai'i 1998-99

DEPARTMENT TO HOST 95th ANNUAL PROFESSIONAL MEETING

Around 3,500 professional geographers will descend on Honolulu for the 1999 Annual Meeting of the Association of American Geographers (AAG), to be held 23-27 March 1999 at the Hilton Hawaiian Village Hotel, in Waikiki. A *hui* of geographers here in the department, along with others from UH Hilo, Honolulu Community College, Hawai'i Geographical Alliance, and Hawai'i Pacific University, comprise the Local Arrangements Committee headed by Mark Ridgley. They have been working hard to give a real Hawaiian-Pacific flavor to the event itself and to the varied assortment of paper sessions, workshops, and field excursions. For more information on the meeting, consult the AAG's website (www.aag.org) and our own (www2.soc.hawaii.edu/geog/).

Highlights of this annual meeting, the first time the AAG has held it in the state, include:

* About 2,200 scholarly papers have been accepted for presentation, and registration stands at around 3,500. From Hawai'i alone, geographers from the university system, state government, and the private sector will be involved in around 60 sessions and give papers on topics of recent research. A series of five linked sessions, 'Living in Hawai'i, will explore such issues as land tenure, resource management, marine issues, paving over paradise, and contested images of land

* The opening session will feature chant and hula, led by *kumu hula* John Lake, to convey a Hawaiian view of geography. Chant and hula are repositories of geographical knowledge and celebrations of land and sea that, from times past, have conveyed a sense of place and of identity for both residents and visitors

* Participants will receive a monograph, 'Hawai'i: New Geographies', edited by Deborah Woodcock, currently on sabbatical at the prestigious Bunting Institute at Harvard. Fifteen essays, written by geography students, alumni, and faculty, are described by Deborah in her introduction as providing 'a view of the islands both more in depth and more personal than that available in other sources.... The tone of the contributions ranges from informal to more traditionally academic but all are informed in significant ways by our own experiences of life in the island'

* Workshops at this meeting will feature the use of the computer for Geographic Information Systems (GIS), geodetic and cartographic analysis, map projections, and qualitative field data. Two morning sessions will focus on translating GIS for classroom use, which will be held on our Manoa campus and led by two principals of ESRI company

資料 1　ハワイ大学地理学科が発行していた Newsletter「Hoike Honua」

記事は，毎号約 10 ページほどだった．

話を最初に戻すが，私たちは比較することで学ぶことが多い．昔から「他人のふり見て，我がふり直せ」とか「かわいい子には旅をさせよ」と言うが，100 年前，中央アジアを旅したアメリカの地理学者ハンチントンの「Pulse of Asia」を持ち出すまでもなく，世界には様々な国や民族が存在し，政治，教育，医療，交通，警察など似通った組織がある．当然，先発組は後発組より豊富な経験をもち，環境が異なれば組織も異なる．しかし，同じ人間のつくる社会だから，似ているものも多く，その中には学ぶものも多い．地理学を学ぶ学生だからこそ，外国へ行ったら目を見開いて車窓に映る外の景色に注目して欲しいと思うのだ．

今思うに，ハワイ大学地理学科には私が真似したいと思うことがいろいろあった．Newsletter「Hoike Honua」もその一つであったが，次ページに示すきれいなガラス張りでオープンな雰囲気の事務室もそうであった．しかし，他人のアイディアをスムーズに移植するのはそう簡単ではない．この Newsletter で言えば，良き理解者・協力者として大崎先生や当時若き長谷川先生がいたことが大きかったと思う．今後も地理・環境専攻の情報伝達ツールの一つとして細々でも続いていってほしいと願っている．

写真１　ハワイ大学マノアキャンパスの入り口

写真２　Social Science Building
この建物の４階に地理学科が入っている．

写真３　キャンパス内にあった学生寮の全景

写真４　ハワイ大学地理学科「事務室」
こちらを向いているのは Typist の Monika Okido.
左側の明かりの差している部屋は Administrative Assistant の部屋．右側に会議室が２つある．

写真５　地理学教室の全景

左側に教員のメールボックス，コピー・印刷室があり，その右にコーヒーポット（コーヒー代は事前に集める）．その右のドアが地理学科長（＝教室主任）の部屋（当時は，後に渋谷の国連大学副学長になった Dr.Fuchs（フュークス）が学科長だった。）．
その隣に秘書の部屋，Administrative Assistant の部屋．

写真６　大学院生用のメールボックス

Manchester Room にある大学院生用のメールボックスと私の TA だった Shannon とビールの入った冷蔵庫．
この部屋はソファーがあって，毎週金曜日の午後に飲みながらコロキウムが開かれていた．訪問者も多く，発表者には事欠かなかった．Newsletter やコロキウムの準備も，Administrative Assistant の仕事だった．

※これまで発刊された Newsletter は，国士舘大学地理学教室の HP ですべて公開されています．
http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/NewsLet/NEWS.HTM を参照ください．

【第 11 回地理ワークショップの開催】

「アフリカ地誌の授業をどう創るか？－ 大陸規模の地誌の事例として－ 」
社会科教員のための地理ワークショップ

地理学教室では，大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという主旨で，主として中・高の先生方を対象に，2001 年度より「地理ワークショップ」を開催してきました．第 11 回目を迎えた今年度の地理ワークショップを 7 月 29 日・30 日に開催いたしました．

本年度はアフリカ地誌をテーマにした地理ワークショップでした．とはいえ，本学地理・環境専攻専任教員にはアフリカを主たる研究対象とする者はおりません．にもかかわらずアフリカを取り上げるのは，どうしても情報の少ないアフリカを事例に，（目前の出来事ではない）外国地誌をどう教えていくか・どう教えているかを，中高の現場の先生とともに考える機会としたいと考えたからです．これを「討論プログラム」と名付けて，参加者である中・高の先生方のグループ討論を軸にして取り組みました．これが去年までの地理ワークショップとは違う，新しい試みでした．

しかしながら，地誌という以上は，「正しい」知識が前提になります．えてして（「誤った」）ステレオタイプな理解に陥りがちなアフリカについて，その概観（含「正しい」地域区分）），アフリカの文化（含イスラーム）や政治・都市など，地誌で取り上げる内容について，あらためて専門的な講義を受け，現状に関する「正しい」知識を得るべく，人文地理学的内容（地域区分，文化，イスラーム，政治・都市など）については，高名なアフリカ研究者で，文化人類学・宗教人類学者である嶋田義仁先生（名古屋大学文学研究科教授）に講義を担当していただき，「討論プログラム」にも参加いただきました．自然地理学・環境問題等の内容については，本学専任教員（野口，長谷川，磯谷の 3 先生）が担当しました．

また，初日午前には社会科教育学の臼井嘉一先生（本学教育学専攻・教授；元福島大学学長）よりご挨拶いただき，アフリカに関する社会科教育学からの観点などについてお話しいただきました．

○講師の嶋田義仁先生の紹介

1949 年生．名古屋大学文学研究科教授．
京都大学文学研究科博士課程修了・博士（文学）
社会科学研究高等研究院（フランス）博士課程修了・第三期民族学博士．

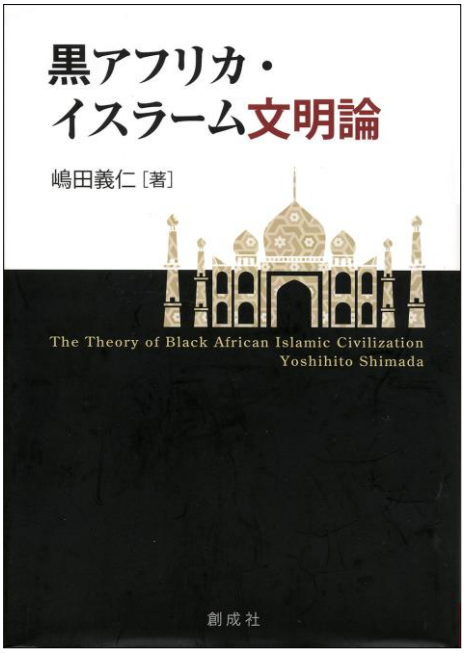
嶋田先生の研究内容については，嶋田先生の近著の紹介（Amazon カスタマーズレビュー）を読めば理解できますので，以下，それを転載させてもらいます．

嶋田義仁（2011）：『黒アフリカ・イスラーム文明論』創成社（3,700 円＋税）．

イスラム文明から見た鋭いアフリカ諸国の分析

明治以来西欧諸国文明を絶対視する教育を受けて来た者にとって新鮮かつ鋭い分析がなされた著書である．本書を読むことによって西欧諸国の思想のフィルターを通してイスラム及びアフリカ諸国を見る事がいかに危険かよくわかる．キリスト教国が植民地化する前に文明など何もないという「コンラッドの闇の奥」の様なイメージは誤りであり．古くからイスラム化によって，交易商業，都市国家社会，衣服，文字が既に導入されていたのである．文化人類学的な視点からイスラム化が読み解かれていることにより，イスラム教が明解な生活倫理を有した実に実践的な宗教であることが良く理解できる．

（Amazon カスタマーズレビュー（書評）より）



プログラム

第一・二日目　2011 年 7 月 29 日（金）・7 月 30 日（土）

○ご挨拶	臼井 嘉一
○アフリカ大陸の自然と文化　巨大大陸の多様な自然，多様な生業文化，複数のアフリカ	嶋田 義仁
アフリカの文明　サハラ交易・インド洋交易と都市・商業経済，牧畜，イスラーム文明	嶋田 義仁
現代アフリカの国づくりと「アフリカ合衆国」構想　植民地主義とアフリカの再生	嶋田 義仁
アフリカの多様な生業文化と諸部族共存　狩猟採集，漁業，牧畜，農業，商業，工芸，宗教	嶋田 義仁
○アフリカ大陸の地図・画像情報　web サイトの情報でつくる地図教材	長谷川 均
○アフリカ大陸でケッペン気候区分を考える	野口 泰生
○アフリカ大陸の植生・土壌と環境問題	磯谷 達宏
○討論プログラム	磯谷 達宏

臼井先生のご挨拶

嶋田先生の講義

長谷川先生の講義

野口先生の講義

磯谷先生の講義

討論プログラム時のグループ討論

国士舘大学を会場にして日本国際地図学会が開催されました

長谷川　均

日本国際地図学会は，「地図」を生業とした方々を中心とした学会です．地理関係の学会では，GIS 学会などとともに研究者以外のいわゆる業界関係者も多く参加している学会といえましょう．この学会誌は，毎号のように特徴ある大判の地図が付録として付きます．中央図書館の開架スペースで最新号を見ることができますのでぜひ一度手に取ってください．

さて 2011 年 8 月 8 日から 2 日間, この学会の定期大会を国士舘大学として初めて迎えることになりました．折しも東日本大震災後の地図学会ということで，大会のメインタイトルは『「地図」が伝える災害の真実』でした．特別セッションとして『命を守る「地図」とは？』，シンポジウムは「震災とジオメディア」，「災害と地図」となり，また巡検は「浦安市の液状化被害地跡を歩く」と震災一色の内容の濃い大会となりました．さらに，展示コーナーには多くの震災関連の地図が展示されました．地図会社が創意を凝らした地図，国土地理院や自衛隊地理情報隊，海上保安庁などが作成した地図など普段見ることのできない貴重な資料が展示されました．梅ヶ丘校舎 2 階のブリッジ付近に展示会場が設けられましたので，本学関係者も立ち寄って目にされたことと思います．

ところで，シンポジウム「災害と地図」はたいへん興味深いもので，国土地理院や海上保安庁，自衛隊の震災時の情報収集や地図作成，災害派遣と地図の提供など緊張感と臨場感あふれる話に満場の聴衆は，身じろぎもせずに聞き入っていました（写真 1）．またもう一つのシンポジウム「震災とジオメディア」は，地図や画像処理の作業に長けた若手の研究者や，地図に関わる仕事をしている方々が行った後方支援や情報発信を題材にして行われものです（写真 2）．このシンポジウムは，Ustream を通じてライブストリーミングされましたので見た人もいるかもしれません．ちなみにジオメディアとは「地理空間情報を収集，整理し，共有，発信することで利活用される新しい情報メディアをさす日本特有の造語」です．

このほかに一般発表もあり，充実した 2 日間でした．本文筆者の長谷川としては，懇親会で OB の就職先の方々や学生の就活先の方々とお話をさせていただくなど，こちらも充実した時間を過ごすことができました．なお，地図学会のプログラムは，http://www.jmc.or.jp/gakkai/　からリンクが設定されています．

写真 1　自衛隊地理情報隊による「震災対応の地図」
シンポジウム「災害と地図」より

写真 2　ジオメディアを主導したのはネオジオグラファー
シンポジウム「震災とジオメディア」より

写真 3　震災関連の地図（アナグリフによる立体地図）に見入る地理・環境専攻の学生たち

本学の学生も見学に来ていました

地域調査士・専門地域調査士制度が発足しました

社団法人日本地理学会（地理学界のなかで最も大規模な学会：会員数　2,938 名／2011 年 9 月 1 日現在）は，「地域調査に関して高度な知識及び実務能力を有する者」を地域調査士，専門地域調査士として認定する新たな資格制度を 2010 年度に発足させました．国士舘大学文学部地理・環境専攻に所属する現役の学生の場合，いよいよ今年度（2011 年度）卒業見込みの学生から，地域調査士の修得が可能です．

社団法人日本地理学会は，この資格制度の必要性を次のように説明しています．すなわち，「21 世紀を迎え，分権化社会・知識情報化社会への転換が進みつつあるなか，グローバル化に晒される地域にとって，官民を問わずに（人文・社会・自然現象が複合した）地域の現状を的確に捉え，そこにある課題を探し解決する能力を有する人材への要請が高まっています．（社団法人日本地理学会　地域調査士 専門地域調査士パンフレットを一部改変）」としています．個人情報の保護や人権等の法律，倫理面での認識を深めながら，地域調査の質的な改善や水準向上を支える人材育成の充実が，日本地理学会のみならず社会全体が抱える大きな課題となっています．こうした点に対応する資格制度として地域調査士，専門地域調査士が発足しました．

本学でこの資格を修得するためには，以下の条件が必要となります．雇用情勢は厳しい状況ではありますが，この制度が果たす社会的な役割を鑑みると，多くの皆さんに資格修得を目指すことをお勧めします．

■「地域調査士」を修得するために必要な認定科目

【必修科目】

・人文地理概説 A＋B　･･･2＋2 単位
・地理学野外実習 C　･･･2 単位
・卒業論文　･･･8 単位

【選択必修科目】

・日本の地誌　or　日本の景観と文化　のうち 1 科目選択必修　･･･2 単位
・自然地理学概説 A＋B　or 地表環境の生い立ち or 地域の気候環境＋グローバルな気候環境 or 日本の水環境　のうち 1 科目選択必修　･･･4 単位もしくは 2 単位
・社会調査とデータ分析法＋計量地理学 or 環境データ分析法 or 統計情報学入門＋統計情報学応用 のうち 1 科目選択必修　･･･4 単位もしくは 2 単位
・地図学 or 地図製作法 or 測量学 1＋測量学 2 or 地理情報システム　のうち 1 科目選択必修　･･･4 単位もしくは 2 単位

※履修上の注意点

①「＋」で結ばれている科目は，その 2 科目（4 単位）の両方を履修・修得することで，必修または選択必修科目として 1 科目履修したと認定される．

②前年度までに修得した科目をさかのぼって認定を受けることができる．

■資格認定のための必要条件

1．上記の地域調査士認定科目の所定の単位を修得していること．
2．社団法人日本地理学会が実施する講習を受講し，修了していること．
3．上記 2 の講習を修了したのち，所定の申請書に必要事項を記載し，科目を修得したことを証明する資料とともに社団法人日本地理学会へそれ（申請書）を提出すること．
4．申請手数料 5,000 円を，申請に際して支払っていること．

※申請方法等の詳細は，社団法人日本地理学会「資格専門委員会」の HP を参照してください．

日本地理学会トップページ：http://www.ajg.or.jp/
日本地理学会資格専門委員会トップページ：http://ajg-certi.jp/

問い合わせ先：社団法人日本地理学会資格専門委員会
E-mail：meguro@ail-certi.jp
Phone&Fax.：03-6416-8683

【2011 年度地理実習の記録】

地理学野外実習Ａ（１年生対象）：5 月 30 日（月）～5 月 31 日（火）実施

◎野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤・宮地

実　施　地：川崎市麻生区古沢地区，横浜市寺家ふるさと村

参加学生数：75 名（男子 54 名，女子 21 名）

テ　ー　マ：丘陵地の自然環境と人間生活　－映画「ラストサムライ」の間違いを読み解く－

目　　的：多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い，地形と土地利用の関係，都市化・宅地化の進行の特徴やその要因等について考察することを通じて，地理調査や地理的思考法の基本を体得する．

課　　題：図表を含めて 400 字詰め原稿 10 枚以上相当のレポート．
提出日時 … 9 月 30 日（金）1 限「自然環境調査法」授業時間

写真１　横浜市寺家ふるさと村にて土地利用調査開始

写真２　川崎市麻生区古沢地区にて
土地利用等の調査中

地理学野外実習Ｂ（２年生対象）：10 月 5 日（水）～10 月 6 日（木）実施

◎野口

実　施　地：長野県霧ヶ峰高原

参加学生数：11 名（男子 10 名，女子 1 名）

テ　ー　マ：霧ケ峰高原を例に，本州亜高山帯における自然環境を理解する

内　　容：事前課題，現地での観察，霧ヶ峰自然保護センター見学

課　　題：次の点についてレポートにまとめる．
1）霧ケ峰高原の気候学的位置づけと生態系
2）霧ケ峰高原の地質学的・地形学的位置づけ
3）霧ケ峰と人的関わり（縄文時代から今日まで）

野口班：霧ヶ峰高原での調査実習

◎長谷川

実　施　地：箱根

参加学生数：14 名（男子 10 名，女子 4 名）

テ　ー　マ：箱根火山と周辺地域の地形の特徴を調べる

内　　容：「地球博物館」常設展示の見学，箱根登山鉄道・ケーブルカー・ロープウェイ沿線の自然の観察，大涌谷，駒ヶ岳での地形，地質の観察．

課　　題：調査結果のまとめを 15 枚程度にまとめる．

長谷川班：箱根での火山地形の観察

◎内田

実　施　地：栃木県日光市
参加学生数：12 名（男子 7 名，女子 5 名）
テ　ー　マ：観光調査と観光地に与えられた意味の解読
内　　容：①観光調査（A.自動車ナンバー調査　B.土産物屋の商品調査）について実習する．
②「世界遺産」としての日光の寺社および鬼怒川温泉地区・足尾地区が，どのような「意味を持つ場所」として見なされているか，また地元の自治体や観光業者たちが，その場所の意味（イメージ）をどのように利用して観光客の誘致に結びつけようとしているか，について記号論的な観点から考察する．
課　　題：レポート 2 本：①「日光市の観光地におけるナンバープレート調査の結果とその考察」と②「観光地の記号としての『世界遺産・日光』およびその他の観光地」

内田班：雨の東武ワールドスクエアにて

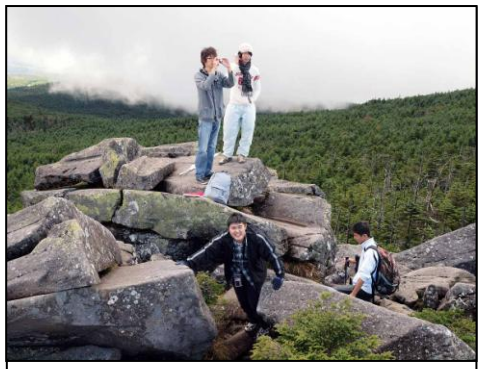
◎岡島

実　施　地：埼玉県川越市
参加学生数：参加学生数：6 名（男子 4 名，女子 2 名）
テ　ー　マ：近世城下町川越の近現代における変遷
内　　容：川越市街地における現地調査，市立博物館・川越御殿等の見学
課　　題：標記のテーマについて所定の分量のレポートを作成する．なお夏休みに事前学習を行っている．

岡島班：川越城富士見櫓の説明を聞く

◎磯谷

実　施　地：長野県蓼科方面
参加学生数：9 名（男子 9 名）
テ　ー　マ：山地帯～亜高山帯の植生
内　　容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した．
課　　題：指示された項目にしたがって，この地域の植生について図表を含めて A4 版 20 枚程度のレポートにまとめる．


磯谷班：縞枯山頂近くの展望台で休憩

◎加藤

実　施　地：東京都品川区
参加学生数：14 名（男子 12 名，女子 2 名）
テ　ー　マ：品川区における「工場跡地」の利用
－産業構造の転換と地域－
内　　容：品川区内に 15 年前（1995 年初）に立地していた工場（30 人以上）の「その後」を調べる．現存する工場とその特徴（業種・立地の特徴など），跡地利用の状況（転換状況・土地所有など）やその特徴（業種・立地の特徴など）を調査し，都市の土地利用変化について考察する．それを通じて，経済地理学的な見方・考え方・調査法の基礎を学ぶ．
課　　題：調査結果に関する図を作成し，調査結果にもとづいた内容についてレポートする．

加藤班：集合解散場所の大崎第二地域センター（ここも工場跡地）

◎宮地

実　施　地：群馬県川場村
参加学生数：10 名（男子 7 名，女子 3 名）
テ　ー　マ：農村における地域資源を活用した特産品づくり
内　　容：農村振興策の一つとして位置づけられる特産品開発の実態を調査した．とくに，近年の川場村で取り組まれているリンゴやブルーベリーなどの果実を使った特産品開発（ジュース、ドレッシング、菓子類）の実態を，村役場，農業生産者，加工品製造業者，地元の直売店等でヒアリング調査した．
課　　題：現地での調査結果を基に，図表を含め A4 版 12 枚以上のレポートにまとめる．

宮地班：ブルーベリー生産農家にて
経営内容について聞き取り中

地理学野外実習Ｃ（３年生対象）：10 月 25 日（火）～28 日（金）実施

◎野口

実　施　地：千葉県銚子市
参加学生数：6 名（男子 4 名，女子 2 名）
テ　ー　マ：千葉県太平洋岸の気候環境
内　　容：1）銚子地方気象台の見学
2）銚子市および波崎町のヒートアイランド現象と利根川水温の影響について：観測と作図
3）銚子における気候要素の諸特性について
課　　題：1）指定論文３編の講読
2）銚子地方気象台の永年データとアメダスデータの取得とグラフ化
3）銚子市街地の気温観測と作図
4）各自のテーマによるレポート提出

野口班：銚子気象台の見学

◎長谷川

実　施　地：東京都伊豆大島町
参加学生数：12 名（男子 9 名，女子 3 名）
テ　ー　マ：伊豆大島を自然地理学的視点から分析する
内　　容：①海岸地形（堆積物と砂浜地形）
②リモートセンシング（土地被覆と分光反射）
③火山地形（時代を異にする溶岩の比較）
④防災 GIS（既存ハザードマップの検証）
の班ごとにそれぞれ調査を実施した．
課　　題：30 枚程度のレポートをまとめる．

長谷川班：伊豆大島岡田港にて

◎内田

実　施　地：大阪市およびその周辺
参加学生数：５名（男子 4 名，女子 1 名）
テ　ー　マ：学生各自でテーマを設定し，現地調査を行う．
内　容　例：観光ブランドとしての世界遺産～宇治上神社を事例に，市民創造型の祭:神戸まつりの変容，神戸 における在日中国人の納豆の嗜好について，家庭料理としてのそばめし～神戸市長田区を事例に
課　　題：各自設定したテーマに従って，現地で得たデータをもとに分析・考察を行う．

内田班：大阪ミナミ・新世界の風景

◎岡島

実　施　地：名古屋市および周辺地域

参加学生数：11 名（男子 11 名）

テ　ー　マ：主として歴史地理学・交通地理学に関する地域調査

内　容　例：地方都市における車社会の抑制と公共交通の利用促進，コミュニティバスの利用状況と付加サービスの利用実態，鉄道の上下分離方式への転換による地域の変容，三岐鉄道北勢線における鉄道利用促進の取り組みと利用者の評価，ローカル鉄道再生に向けた振興策と課題，湯の山温泉における観光客の利用交通の変遷，中部国際空港の各交通アクセスにおける現状と課題，知多市岡田における歴史的景観の保存，愛知県西尾市における歴代藩主の移り変わりと城下町の変遷，愛知県豊田市足助町の歴史的町並みの特性と保存の現状，名古屋市内の大学のキャンパス移転について

課　　題：各自のテーマに従ってレポート作成

岡島班：宿泊先でのミーティング風景

◎磯谷

実　施　地：島根県大田市とその周辺地域

参加学生数：11 名（男子 10 名，女子 1 名）

テ　ー　マ：島根県中北部の生態地理

内　　容：島根県中北部でみられる動植物の生態地理について，各自が事前にテーマを設定して調査した．具体的に選ばれたテーマは，雑木林と植林地における樹木の更新，河辺草原の組成，水草の生育状況，雑草群落の組成と食害の状況，雑草群落におけるポリネーターの生態，中～大型哺乳動物の生態地理と農作物被害および海岸生鳥類の生態地理であった．

課　　題：図表を含めて A4 版 30 枚程度のレポートにまとめる．

磯谷班：のどかな山里にて調査開始！

◎加藤

実　施　地：愛媛県八幡浜市とその周辺

参加学生数：10 名（男子 7 名，女子 3 名）

テ　ー　マ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う

内　容　例：中心商店街・宇和島市宇和島きさいやロードの現状と課題，宇和島市の真珠養殖業をめぐる問題，大洲市における直売所の現状と課題，八幡浜市における水産加工業の現状と課題，八幡浜市の中心商店街の衰退要因と今後の課題，八幡浜市における造船業の現状，八幡浜市における工場跡地の利用

課　　題：各自のテーマについて，『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる．

加藤班：八幡浜市遠景
ミカン畑と造船所（栗之浦ドック）

◎宮地

実　施　地：宮崎県綾町
参加学生数：11 名（男子 5 名，女子 6 名）
テ　ー　マ：農山村における地域問題，地域づくり調査
内　　容：①有機農業班
②新規就農班
③特産品開発班
④地域づくり班
班ごとにそれぞれの研究目的に沿って現地調査を行った．
課　　題：班ごとの調査結果を，『卒業論文の手引き』を参照しながら A4 版 25 枚以上（図表含む）のレポートにまとめる．

宮地班：綾町の地域づくりの核・照葉樹の森を前に

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では，卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を 2 名の教員が閲読し，さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています．今年度も下記の通り，卒業論文の口頭試験が行われ，試験の結果から卒論の評点が決まります．試験は，持ち時間 9 分の口頭発表とそれに続く質疑応答です．発表者はあらかじめ卒論の要旨，図表などをまとめたレジュメを用意し，出席者に配布できるよう準備してください．また，質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー，その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは，必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）．これらは卒論の合否が決まるまで処分しないこと．

就職が決まり，試験当日に社内研修などが予定されている 4 年生は，就職予定先に事情を説明し，研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください．

なお評価の結果，優秀な卒論 2 編は，全国地理学専攻卒論発表大会（2012 年 3 月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうことになります．発表者は，2 月 8 日中に決定し，すぐに通知します．

日　　時：2012 年 2 月 6 日（月）10：50～，7 日（火）・8 日（水）9:20～
場　　所：世田谷校舎 10 号館 2 階　10204 教室（階段教室）

注意事項（4 年生はよく読んでおくこと）：

※ 試験時間は，1 人 18 分（発表 9 分，質疑応答 9 分）である．発表者は発表用原稿を必ず用意し，あらかじめ発表の練習をしておくこと．発表の内容はもちろん，発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる．なお，発表時は予鈴 7 分，本鈴 9 分の合図があります．

※ 発表に際しては，かならず以下の要領でレジュメを用意しておくこと．レジュメはワープロによって作成することが望ましい．

1. レジュメは，論文題目，氏名，論文の要旨（目的・方法・結果を書く．字数が多くなりすぎないように，計 800 字程度を目安にするとよい），説明に使用する図表によって構成する．
2. レジュメの枚数は，A3 サイズで 2 枚横書き（図表を含む）とし，各自 40 部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと判別しにくい場合はカラーコピーをするか，口頭試験用に図表を白黒で描き直すこと）．
3. レジュメは，発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする．その際，まず教員に配ること．

※ 発表では，スライドやOHP，PCプロジェクターも使用できる．使用希望者は事前に専攻主任（内田）またはゼミ担当教員に申し出ること．なお，PCプロジェクターを使う場合，原則としてノートPCは各自で用意すること．また，ディスプレイの設定等が必要なため，PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し，発表までに動作確認等しておくこと．PCプロジェクター使用の場合，接続替え等に時間を取られすぎないように，前後の発表の人の使用を確認し，機器を一時的に借りる（同じPCを使用する）などの工夫も心掛けること．

※地域調査士の資格を希望する者（日程表でＣの記号が付いている者）は、各自で事前に申請用紙を日本地理学会ＨＰ（http://ajg-certi.jp/gr/becomes/download.html）よりダウンロード・印刷し、その１枚目（申請書１）に必要事項（顔写真も）をすべて記入して用意しておくこと．必要事項を記入した申請書１を口頭試験日程期間中に提出してもらい、副査が記名・押印したのち一括して返却する．この機会をのがすと「地域調査士認定委員会が指名する者の認定」が面倒なことになるので、卒業予定者は必ずこの機会に行うこと．

※ 3年生は卒論作成の参考のため，また来年の口頭試験のためにも，全員出席し，大半の発表を聞くようにすること．1，2年生もできるかぎり１日以上出席すること．2年生にとっては3年以降の専門分野（ゼミ）の選択する上で，もっとも参考になる行事なので，できる限り多くの発表を聞くことが自分のためにもなります．

【2011年度卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏　名	主査	副査	題　目
２月６日（月）		**10:50～12:05　＜進行：長谷川＞**		
C3	松本　瑞穂	宮地	磯谷	過疎的農山村における芸術によるまちづくりの取り組み －群馬県吾妻郡中之条町を例として－
5	関戸　陽輝	岡島	宮地	品川用水流域及び周辺諸村における水利システム
6	小友健太郎	宮地	岡島	生産緑地法改正後における都市農地保全に向けた取り組みの実態 －東京都杉並区を事例として－
7	佐京　峻太	加藤	内田	近年における家電量販店の立地展開 －千葉県を事例に－
		12:50～15:40　＜進行：宮　地＞		
8	王　　偉	野口	長谷川	最近 50 年間における日本と中国の都市気温上昇について
C10	押切せかい	内田	岡島	足立区における地域イメージとその背景
11	陳　　秉傑	加藤	岡島	東京都渋谷区におけるコンビニエンスストアの立地分析
12	高橋　美紗	加藤	野口	町田市の商店街の形成と現状
13	鈴木　学	磯谷	長谷川	沿岸地域における中型哺乳類の生態と住民への被害について －三浦半島南部を例に－
15	草野　将之	宮地	野口	滋賀県東近江地区における環境保全型農業の実態とその課題 －滋賀県東近江市を事例に－
C16	高山　勝太	岡島	内田	静岡県静岡市のバス交通の現状と課題
C18	小倉　正樹	岡島	内田	高速道路全線開通における影響 －東海北陸自動車道を中心として－
C19	永井麻由佳	長谷川	野口	長野県鉢伏山における構造土の分布について
		15:50～18:20　＜進行：野　口＞		
C20	鳥羽　優斗	岡島	内田	地方鉄道の在り方　－真岡鐵道を事例に－
21	藤田　航介	内田	宮地	南種子町における安納いも栽培
22	門田　和也	加藤	宮地	埼玉県中央地域における銭湯とスーパー銭湯の共存
C23	井垣　知佳	長谷川	野口	霧ヶ峰における周氷河地形の分布について
24	藤田　征成	磯谷	長谷川	江戸川河口付近における鳥類群集とそれに影響を及ぼす要因
C25	田中　悠歩	内田	岡島	茅ヶ崎市におけるご当地ソングからみたイメージと 音楽文化を活かした町おこし
GC28	結城　正浩	加藤	岡島	新潟県長岡市における中心市街地の変容と活性化事業の展開
29	梁　　国響	加藤	岡島	賑わいのある商店街の現状 －新小岩駅前ルミエール商店街の事例－

番号	氏　名	主査	副査	題　目

２月７日（火）　　9:20～12:10　＜進行：内　田＞

C30	方波見佳央	磯谷	長谷川	スダジイ(*Castanopsis sieboldii*) の海岸部から内陸にかけての成長の違い －茨城県鉾田市周辺を例として－
GC32	関　淳平	長谷川	磯谷	琉球列島伊平屋島の浅礁湖における経時変化
C33	山本　正樹	野口	長谷川	気温分布における東京の地域代表性
36	曽　剣兵	長谷川	磯谷	2008 年岩手・宮城内陸地震による起こした荒砥ダム北側崩壊地形について
C37	梶　かや子	磯谷	長谷川	人為的影響を強く受けた海浜植生の分布と種組成 －神奈川県鎌倉市を事例として－
38	高田　卓磨	磯谷	野口	東京都世田谷区における生垣の分布・形態・構成と住宅地の変遷史との関連性について
C40	小出　駿介	宮地	内田	農業・農村体験学習を通した多面的な交流効果 －千葉市の農山村留学事業を事例として－
G41	菱山　雅貴	宮地	加藤	関東地方における「道の駅」の立地状況と経営実態
GC42	笠井恵梨香	加藤	岡島	埼玉県川口市安行地区における植木生産地域の形成と生産構造

13:00～15:30　＜進行：長谷川＞

GC43	赤松　未来	加藤	岡島	新聞折込におけるエリアマーケティング －地理学的方法で考察する－
45	季　彦	内田	宮地	東京 23 区における外国語案内標記の現状と課題 －鉄道駅の案内標記を対象として－
C47	齋藤亜莉沙	宮地	内田	主要野菜にみる価格動向の特徴と出荷上位産地の変化
GC48	田　信也	宮地	磯谷	梅産地における生産体系の変容 －群馬県榛名地区を事例として－
GC49	飯田慎太郎	加藤	岡島	新潟市におけるスポーツ振興に関する取り組みの実態
50	津川　直也	加藤	宮地	広島県府中市における商店街の衰退と活性化への取り組み
51	八島　理佳	野口	長谷川	岡山県と広島県における林野火災焼損面積と気候要素の関係について
C52	木村　智英	宮地	内田	地域団体商標制度を活用した地域ブランドづくりとその課題 －宇都宮餃子を事例として－

15:40～18:10　＜進行：磯　谷＞

GC53	園部　良	加藤	内田	食品加工業の生産構造　－冷凍食品工場を事例に－
GC57	佐々木久美	野口	長谷川	福島県における降雪深分布の特徴について
58	古畑　貴登	加藤	宮地	糸魚川駅前商店街の現状
60	渋谷　大司	野口	長谷川	熊谷市における熱中症搬送件数気候要素との関係について －WBGT と不快指数を中心に－
G65	清水　達人	加藤	宮地	自動体外式除細動機（AED）設置の現状
C67	平山　隆太	内田	岡島	アニメ聖地の展開過程と特徴
GC68	中村　誠	加藤	岡島	埼玉県上尾地域における輸送用機械器具製造業の実態
C69	春山　和彦	長谷川	磯谷	烏川沖積低地に形成された天井川の成因について －群馬県高崎市・根小屋七沢を例に－

番号	氏　名	主査	副査	題　目

２月８日（水）　　9:20～12:10　＜進行：加　藤＞

C73	村山　真志	磯谷	野口	利用者の多い登山脇道における路傍植生の実態について －東京都高尾山の事例－
GC74	谷口　遥	内田	長谷川	群馬県における焼きまんじゅうの販売店からみた食の地域性
75	高橋　岳	磯谷	宮地	歴史性のある緑地景観の分布とその意義
GC77	鈴木　里枝	岡島	磯谷	歴史的町並みの形成と保存の現状 －栃木県栃木市を事例に－
GC78	祐乗坊宏明	磯谷	野口	神奈川県南東部の丘陵地における二次林の分布と樹種構成
79	緑川　達也	野口	磯谷	東京大都市圏におけるヒートアイランド強度 －特に方位による違いについて－
C81	西川　浩史	岡島	内田	砂利鉄道の展開と地域社会　－多摩鉄道を中心として－
83	三浦　大貴	宮地	加藤	輸入自由化の下で生じた国内農畜産物産地の変化 －豚肉産地を事例に－
C85	川俣　葵	長谷川	磯谷	三浦半島にみられる波食棚の特徴 －構造岩石との関連性について－

13:00～15:50　＜進行：岡　島＞

91	都野守貴裕	宮地	岡島	地方公共交通の存続へ向けた沿線地域社会の取り組みとその有効性 －真岡鐵道を事例として－
92	花井　静香	野口	長谷川	千葉県における夏の海陸風の発生傾向について
99	庄司　達哉	内田	加藤	中央自動車道の SA・PA における土産品の販売分布とその特徴
100	安田健太郎	野口	磯谷	長野県小盆地における降水について
101	関根　悟	宮地	内田	水稲作産地における農業生産法人の経営特性 －新潟県新潟市白根地区を事例に－
103	片桐　隆裕	加藤	内田	新潟県長岡市における書籍小売業の立地展開 －全国・新潟県と比較して－
105	瀧田　翔太	野口	磯谷	低公害車と環境問題　－地球温暖化を例に－
113	根津亜紀奈	長谷川	野口	新潟県津南町における段丘利用からみた地形誌
116	森　勝儀	加藤	野口	伝統的畑作農耕システムにおける平地林の存在意義 －埼玉県所沢市富岡・中富地区を事例にして－

注．番号の前に付されたアルファベットの凡例は，次の通り．
G：GIS 学術士取得希望者，C：地域調査士取得希望者

2010 年度の卒業論文公開口答試験の様子（地理・環境専攻 HP より転載）